

# 嶋満神社便り

令和二年一月号(第三十一号)

発行 嶋満神社奉賛会

## 拍手を打つ?合掌する?!

皆様明けましておめでとございます。  
突然ですが、問題です!

私たちは神社にお参りするときにパンパンと拍手を打ちますよね。「二礼二拍手一礼」と昔から教えられてきました。一方お寺では拍手を打たずに、ただ手を合わせて合掌します。

では江戸時代より前の参拝者は神仏の前ではどうしていたのでしょうか? 拍手?合掌?

なんでこんな質問をするのか、まずそこに疑問を持たれる方も多いでしょう。

本誌前号と前々号で見てきたように神様と仏様は別々のもので、お祭りするのも別々、もちろん神社とお寺は敷地からして別々のものという「**ずっと続いてきた伝統**」という概念は、実は明治以降の百五十年間のものでした。ならば、人々は江戸時代以前の神様も仏様もごちゃまぜに祭っていた「**神仏習合**」の時代にも今と同じように**拍手と合掌**を使っていたのか?という疑問が湧いてくるわけです。

お答えいたしましょう。

伊勢の神宮徴古館に伝わる「伊勢神宮参詣曼荼羅」ほか、多くの神社の参詣曼荼羅や旅行記にはそこに参拝する人々の姿も描かれています。その人たちは、神社の境内にある仏教の「神宮寺」やお堂では**合掌**し、神社の拝殿では**拍手**を打っていたのか・・・?

答えは皆、「合掌している」のだそうです。

(私は実物を見たことがないので・・・)  
そこには**拍手**を打っている人は全くいません。

実のところ資料画像だけではよくわかりません。現在のように動画で残してくれていればはつきりわかるのですが、実物を見た研究者がそう言うのですから、そうなのでしょう。どこかの神社仏閣で参詣曼荼羅を拝見する機会があれば、そんなこともしっかり見てきたいものです

## 日本人は「無宗教」?

ところで先に「神仏習合」を「ごちゃまぜ」と表現しましたが、正しくは「同じものとみなして一緒に祭っていた」と言うべきではないでしょうか。つまり明治の「**神仏分離令**」以前の日本人には「神道」とか「**仏教**」とかいう概念はなく、ただ「**ありがたいもの**」「**救いをあたえてくれるもの**」といったイメージだけだったのではないのでしょうか。

ですから現在でもその名残で、人が生まれてから結婚を含め数々の儀礼を経て成長する過程では神道、葬儀や死者の供養では仏教と、うまく使い分けているのであって、我が国民は決して「**無宗教**」などではないのです。ただキリスト教やイスラム教のような「**一神教**」ではないので、その宗教の名前を挙げる事ができないだけです。現代の「御朱印ブーム」で「**パワースポット**」を巡る人々の心の内は様々ですが、日本人ほど神仏に敬虔な民族はなく、その形は欧米の基準とはまた違うものだと、胸を張りたいものです。

資料出典「神も仏も大好きな日本人」筑摩書房、「日本の八大聖地」光文社 いずれも島田裕巳著

## タイガース神社

阪神ファンの方ならよくご存じの、岡山県にある「**阪神タイガース神社**」。熱烈なファンのおっちゃん、いわば「**勝手に**」建てた神社です。これなども「開祖も、教義も何もなし」神道だからできること、お寺のように「何宗の何派ですか?」などと難しいことを言われなくてもいいのです。

ちなみにおっちゃんの亡き後、娘さんご夫妻がリニューアルされてお守りされているそうです。  
日本人の宗教に対する寛容性もまた、胸を張っていいことだと思います。

(写真はその時のニュースを伝える朝日新聞の記事より)



本日はこの辺で。